

活動テーマ

地域力向上をめざし、 地域のコミュニティをつくろう！

東京都

社会福祉法人 ダビデ会

〒196-0034 昭島市玉川町1丁目10番4号 TEL. 042-545-3561 FAX. 042-545-3564

取り組み内容の
ポイント

地域における居場所づくりについて、多様な世代が参画できるようなプログラムを提供し、コミュニティづくりを試みている。子育て世代・高齢者世代・学童の3つの世代に絞り、達成目標・実践・評価・改善といったPDCAを回し、参加者に向上意識を持たせていることである。

活動内容

- 活動開始年
平成25(2013)年1月
- 活動の対象者
地域の乳幼児、高齢者、学童
- 活動の頻度・時間
週5日(月～金)1日9時間

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載している
- ②事業報告・計画への記載 記載している

取り組みを実施している施設の概要

法人として実施している。

法人設立年

昭和54(1979)年3月7日

法人実施事業

- ①経営施設数合計：1施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
・保育所 1か所

法人の理念・経営方針

健全育成

心・体・知性の育ちのポイント、時期を逃さず応援していく、子どもの最善の利益を最優先します。

福祉的教育支援

保育と教育の融合によるキリスト教精身に基づいた人格教育ナオミの6領域を通し、子ども一人一人を丁寧に心をこめて応援していきます。

地域福祉サービス推進

どなたでも遊びに来たくなるような開かれた園づくりをめざし、子育てを生涯応援していきます。

活動実施の背景、実施にいたった理由

地域におけるコミュニティづくりをめざした、「地域ふれあい館」創設の背景については、シャッター街化した駅周辺に、居場所のないお年寄りが増加し、一日が過ぎるのを待ちわびている様子や、行き場のない子どもたちによる万引きや恐喝などのトラブルの増加、子どもの声を迷惑であると喚き散らす大人の姿が蔓延し、地域力低下を実感したことがあげられる。こうした実態を目の当たりにし、保育所といった母体を生かした何か地域に向けて貢献できる活動はないのか模索していた。そこで、保育所を取り巻くこうした地域の実情を所属自治体に報告するとともに、居場所づくりについての援助やその支援の制度について尋ねると、保育所は子育てのエリアから出てはならない、高齢者の方に手を出してはならないといった、制度上の縛りが存在することが明らかになった。そして保育所で出来ることが非常に限られている実情も目の当たりにした。もし、制度と制度のはざまに手を差し伸べたいとなると、自助努力しかなく、援助は期待できないといった返答の中、自己負担でコミュニティづくりをスタートすることで、行政の制度の狭さや地域の活性化に一石を投じようと試みた。

実施内容

地域力をあげるための、地域におけるコミュニティづくりというのは、そこで提供されるプログラムが命である。なぜなら、参加者全員に自己肯定感と向上心を持たせなければならないからである。そのためにはプログラムの対象者を明確にしなければならない。そこで絞ったのが、三つの世代である。一つ目が、保育所の十八番である子育て世代、二つ目が高齢者世代、三つ目が学童といった世代である。一つ目の子育て世代には、養育力向上をめざして、保育援助・実践・評価測定といった一連の流れの中、子どもの育ちが見えるようにしたプログラムの工夫がポイントに挙げられる。二つ目の高齢者世代には、認知症予防・健康増進を目標に掲げ、自己の向上が見えるように測定及び記録に工夫を加えている。三つ目の学童には、学習支援を行い、また協力して達成する体験活動を提供し、社会に羽ばたく土台づくりに力を入れるプログラムを提供している。

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

活動当初に比べ、利用者数は確実に増え、参加者の世代も多様化してきている。そして口コミにより、遠いエリアの参加者も増えてきている。

また、成長の見える化を図ることで利用者が定着し、相談件数も増えており、行政のお世話になる前に手を打つことが出来ている。本取り組みを支える職員の変化について述べると、地域を支援することが自己の専門性をあげることになるといった、向上心と地域力向上への使命感をもって、内部研修の場として活用するようになってきている。さらに、介護支援員・ケアワーカーといった方とのつながりが、より地域に広がりつつある。また、シャッター街化した商店街においては、活性化につながるといった歓迎を受

け、創設当初、物品販売を目的としていないことから、創設に反対であった商店会が仲間意識を持って受け入れてくれるように変化している。

今後の展開

今後の課題としては、プログラム工夫の余地と行政への働きかけが残されている。まず、プログラム工夫の余地については、本取り組みにおける世代別プログラムを交流させていき、異世代間交流及び支え合いのサイクルが、自然に成されるように支援していくことである。また、参加者の参画意識の向上についても完全に成し得るよう、プログラムを工夫する必要がある。そして、行政への働きかけについては、制度と制度のはざまを救う事業を継縦せるために、補助なり支援なりを模索してもらえるように、本活動を行政にPRすることが必要である。今後ともこれらの課題を踏まえ、地域力向上をめざして励んでいきたい。

主な経費や財源及び人員など

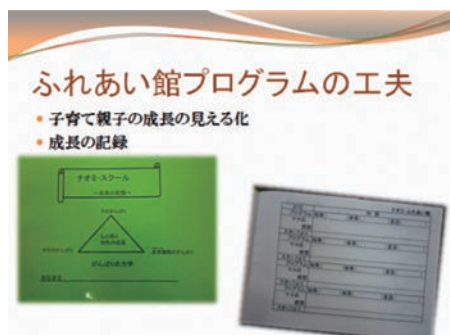
※年間あたり

主な経費(支出)	経費概算額	主な財源(収入)	財源概算額
賃貸料他	1,303,440円	子育てサークル	228,000円
水道光熱費	187,200円	世代間交流	228,000円
通信運搬費	72,000円	学童補助クラブ	1,152,000円
諸雑費	240,000円		円
人件費	円		円
合計	1,802,640円	合計	1,608,000円

- 取り組みに係わった職員数 20名
(職種等：園長、保育士、栄養士、調理師、事務員)
 - 取り組みを実施している施設の事業規模
(平成25年度決算の事業活動収入) 196,597,917円
- ※法人全体の事業規模(同上) 196,597,917円



気になるお子さんの状態が改善されたという嬉しい報告も!!



利用者と共に歩む日々のプログラム!



認知症予防、健康増進にもなるプログラム!